

授業科目	＊精神看護学演習					実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	前田 由紀子／矢治 亜樹子						
授業概要	実務家教員として精神科病棟に看護師として勤務した経験を活かして、精神科看護に活かすことができるアセスメントやケアの方法を習得することを目指す演習内容にする。精神看護学概論、精神看護方法論で学んだ知識をもとに、精神疾患を持つ人の事例を通して必要な看護を実践するための知識、アセスメント技術、ケアの実践方法を学ぶ。グループワークにおけるディスカッション、個人演習において多角的にアセスメントをおこないケアプランを立案する能力を養う。また、精神障がい者に看護実践をするために必要なコミュニケーション技術についてもグループディスカッション、個人演習をおこない、信頼関係を構築する能力を養う。						
授業形態	対面授業			授業方法	グループワーク、プレゼンテーション		
学生が達成すべき行動目標							
標準的 レベル	1. 統合失調症の事例を通して看護実践に必要な基礎知識の活用を図ることができる。 2. 精神科に入院している患者のセルフケア能力やストレングスをアセスメントし、必要な援助を計画することができる。 3. 精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を学び、プロセスレコードの分析の視点に沿って考察することができる。 4. デイケアの通所者とのかわりに必要な基礎知識について説明することができる。 統合失調症の事例を通して看護実践に必要な基礎知識の活用を図り、精神科入院患者のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を計画することができる。 精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を学び、プロセスレコードの分析の視点に沿って考察することができる。 デイケアの通所者との関わりに必要な基礎知識について説明することができる。						
理想的 レベル	標準的なレベルをすべて網羅できたうえで、さらに関心ある精神科看護の課題について積極的、主体的に学びを深めることができる。統合失調症だけではなく気分障害や神経症など精神科入院患者のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を考える。習得した知識を基にグループでディスカッションを活発に行い、問題意識を高め、根拠に基づく看護を志向する。プロセスレコードで自己を振り返り自己洞察の能力を養う。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合（数値）			備考	
試験			60				
小テスト							
レポート							
発表（口頭、プレゼンテーション）			10			事例に関する発表	
レポート外の提出物			30			事例に関する記録物	
その他							
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング							

	・精神を病む人の社会参加の状況と看護の役割および社会資源の活用について考える。（前田由、矢治）
第13回	テーマ：看護場面の再構成 ・ペプロウの理論を用いて、精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を理解する。（前田由、矢治）
第14回	テーマ：看護場面の再構成 ・ペプロウの理論を用いて、精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を理解する。 ・プロセスレコード事例①をアセスメントする。（前田由、矢治）
第15回	テーマ：看護場面の再構成 ・ペプロウの理論を用いて、精神を病む人との関わりに必要な基礎的な技法を理解する。 ・プロセスレコード事例②をアセスメントする。（前田由、矢治）
テキスト	プリントを配布または、クラスルームに提示します。必要時印刷して下さい。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	岩崎弥生, 渡邊博幸(編) 新体系看護学全書 精神看護学概論 精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 岩崎弥生, 渡邊博幸(編) 新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護 第6版メヂカルフレンド社 萱間 真美著 リカバリー・退院支援・地域連携のための ストレングスモデル実践活用術 医学書院
課題に対するフィードバックの方法	授業毎に全体を通してコメントしその内容を授業に反映させます。授業はグループワークが中心となります。グループの見解は口頭で発表していただき授業内でコメントします。
学生へのメッセージ・コメント	レポート外の提出物は授業毎に課題を指示しますので必ず提出してください。 精神疾患、精神看護学概論、精神看護方法論など既習の知識を再確認して受講してください。 精神看護学実習に直接関連する科目ですので、主体的態度で授業に参加してください。